

私の「成長戦略」

2010年3月28日、成田空港の発着枠が20万回から22万回に拡大しました。羽田空港の再拡張と成田空港の滑走路延伸。航空業界を取り巻く現状が様変わりする中、今後の航空各社の勢力図に変化をもたらす可能性がある。発着枠拡大に関して何か企画ができないか、かなり早い段階から考え始めました。成田空港会社の拡大までの密着、闘争の歴史など、さまざまな案を出してみたものの、あまり自分の中では納得がいきませんでした。そんな中、とある記事で見つけた「エミレーツ航空の就航」。これまで関西国際空港にしか就航していなかったエミレーツ航空が、発着枠拡大により、成田空港に就航を決めたというのです。

エミレーツ航空は、私にとって最も馴染みの深い航空会社でした。学生時代バックパッカーだった私は、アフリカを中心に、約40カ国を回っていました。ルワンダの虐殺現場に行ってみたり、エチオピアの山奥でウルルン滞在記を体験したり。海外に対する好奇心だけは強かった学生時代。いつもアフリカに行く際にはエミレーツ航空でドバイを経由していました。

ダメ元で、上司に相談。

私「エミレーツ航空の成田就航って、企画

になると思うんですが……」

上司「何が撮れるの？」

私「エミレーツ航空が成田に就航したら、中東のみならず、アフリカなど全世界に行きやすくなります。また、ドバイの魅力をふんだんに盛り込めば、視聴者がすごく関心を持つてくれる内容になると思うんです。」(適当)

上司「ふーん。あ、それとは別に例の件だけどさ……」

当然のことです。ご多分にもれず会社の景気が悪い中、ドバイの魅力紹介などという「ポップ」すぎるネタで自分がドバイに出張できるなんていう考えは浅はかすぎました。世界の状況を自分の目で取材して伝えたい、そんな気持ちで入社したテレビ局。入社2年目。ドバイに行きたい気持ちを抑えながら、改めて企画を練り直し始めました。

そんな中、上司の判断は突然でした。

上司「この前の件だけど、お前ドバイ行く？」

私「いつ、いいんですか？」(国交省5F喫煙室に鳴り響く大きな声で)

聞くと、偶然にも発着枠拡大翌日の29日は弊社の夕方のニュース番組がリニューアルするとのこと。番組の華やかなスタートのため

にもドバイまで行って取材してこいというのです。

念願の出張が決まりました！

そして3月下旬。いつものように国交省クラブには様々な分野における急な取材が入る中、すべて放ってドバイへ。いっつにも増して気合が入った出張でした。ドバイでの日本ブーム、就航による経済効果、エミレーツ航空の成田就航に向けた取り組みなど、本当に休むことを考えずに取材した5日間。40度の炎天下の中、初日からトップギアで走り回りました。

結局……。最終日に倒れました。外気温と同様、40度近くの熱が出て記憶もなし。張り切りすぎでした……。充実した機内エンターテインメントを楽しむ予定だった帰りのエミレーツ航空機内は病室のベッドと化していました。

何とか最後の気合を振り絞り、体をだましながら翌日に企画をOA。仕事で海外に行くことってこんなに大変だったのか。それでも成田空港の発着枠拡大に関して、テレビ局らしい切り口での取材ができた気がして何とも

いえない疲労感と充実感で満たされました。

翌日、国交省クラブに出社。クラブの一部記者からは「ドバイ記者」と呼ばれるようになりました。

国土交通省はあらゆる分野において、国際競争力の強化を前提に政策立案しています。そのため記者としても海外の事例を調べる機会が多くあります。次ほどの国の取材ができるのか。まだ着任してから半年、国交省担当記者として国内外問わずアンテナを張ることを忘れないように。

今年の夏休みは、また懲りずにドバイを経由してアフリカに行こうと考えています。

